

2022年度 GNC活動報告



モンゴル国 セレンゲ県 アルタンボラグ村 植林地にて

2022 年度 植林報告

以下のように、植林作業を実施したことを報告します。

1. 植林作業実施概況

植林 実施日	春季	植林作業 2022 年 5 月 11 日～19 日 新規植林地 約 12.8ha 新植林本数 32,000 本
植林場所	モンゴル国セレンゲ県 アルタンボラグ村ゴロワンツァガントルゴイ周辺	
樹種	ヨーロッパアカマツ <i>Pinus sylvestris</i> (在来種) の 2 年生苗	
植林作業	オグナー (GNC Mongolia スタッフ) サラ (GNC Mongolia スタッフ) アルタンボラグ村及びボゴント村の村民など約 45 名 (延べ人数)	

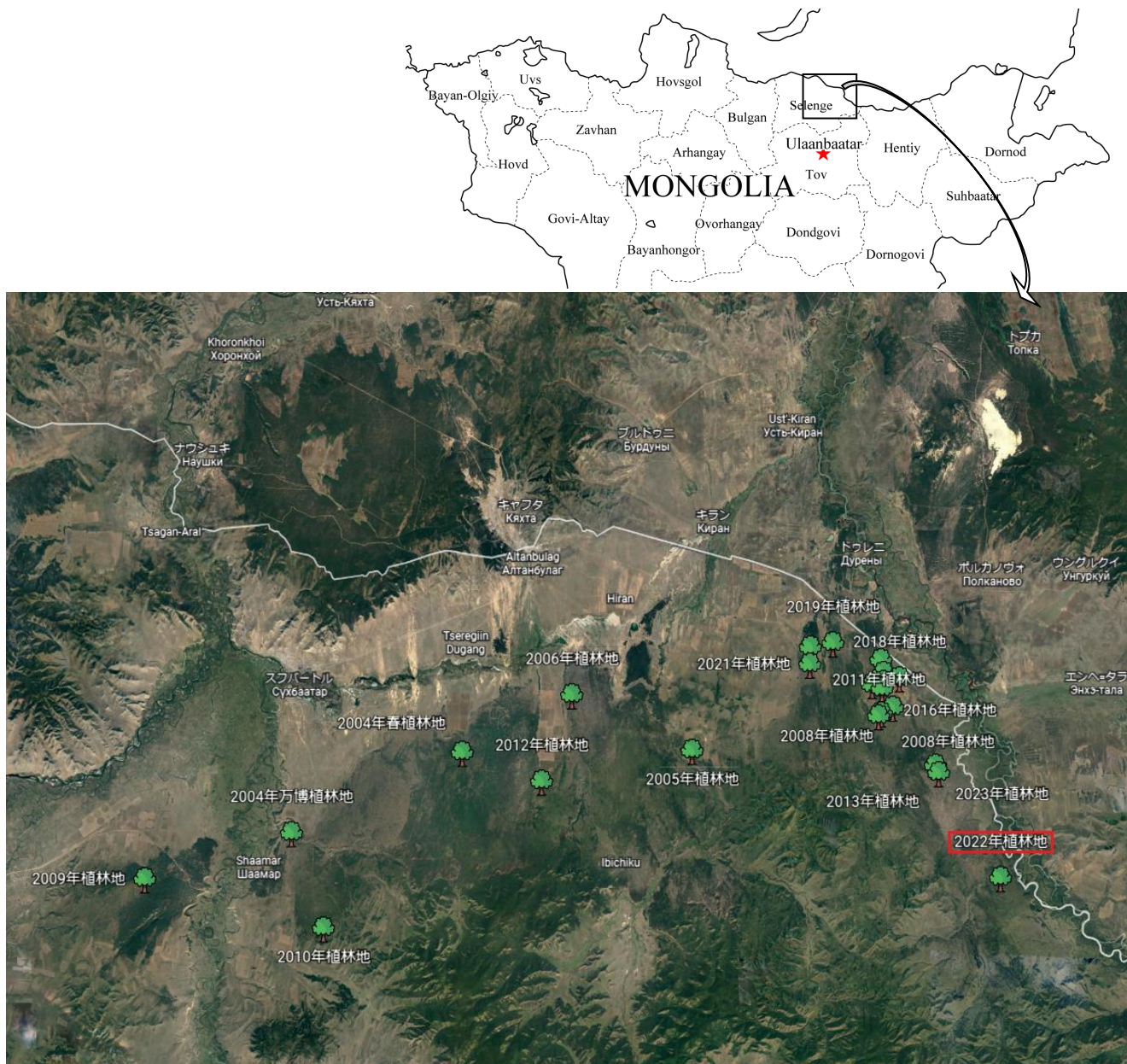
2. 2022 年植林地の概況報告

2022 年 5 月に、予定していた 12.8ha の植林が全て完了し、また 9 月に生長状況の確認を実施したことをここに報告する。今回植林に用いた苗は、セレンゲ県ボゴント村の苗畑で育てられた 2 年生アカマツ苗を使用した。今年度の植林密度は 2,500 本/ha である。

2022 年の植林地は、アルタンボラグ村から南東へ約 50km 離れたロシアとの国境付近にあり、山の頂上からふもとにかけての場所である。当地域は過去に森林火災の被害に遭っており、アカマツ・シラカバ等の天然更新が部分的に見られるものの、森林の再生までには気が遠くなるほどの時間がかかると考えられる。また、植林地周辺では家畜の放牧は行われておらず、居住者もいないため、家畜の食害の危惧はほぼない。豊かな生態系を持つ森林を早期復元するため、植林による事業を実施する。

近年、毎年のように世界各地で山火事のニュースが報道されている。モンゴル国では 2012 年頃以降、行政主導の元、村役場や森林組合などの人員が火災危険期にパトロール隊を結成し、森林火災の早期発見、初期消火活動、及び関所での注意喚起を行っているため、大規模に延焼する可能性は低くなってきている。

3. 植林地の位置



2022 年植林地の GPS 捕捉状況

50° 03' 42.6"N 107° 04' 14.4"E

4. 5月 植林時の写真



遠景 1



遠景 2



ゲルの組み立て



ゲル完成



トラクターによる植林前の溝掘り



溝掘りアタッチメント装着



溝掘り

溝を掘り、溝の底に植林することにより
日射を減らし乾燥化を防ぐ

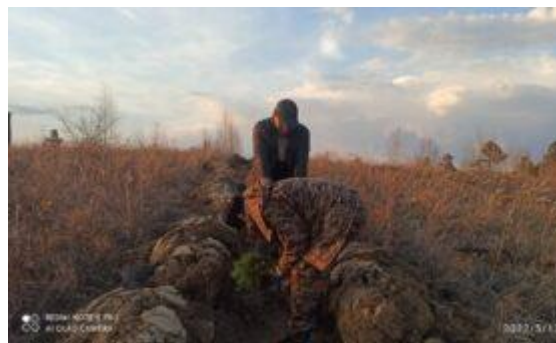


溝掘り

大きな溝には雨が溜まりやすいため、
乾燥が防げる



二人一組で効率よく植付



植付作業



植付作業

地面に大きく溝を掘り、一番太陽が
当たらない端の部分に苗木を植える



植付作業

日光の当たり過ぎを防ぎ乾燥を避ける



植付作業

苗を溝の端に寄せて植え、乾燥を防ぐ



植付作業



植付作業



植付作業



植付作業



植付した苗

5. 9月（植林から4ヶ月経過）植林地視察の写真



各定点から4方向の撮影
植林地の概況を把握



各定点から4方向の撮影
植林地の概況を把握



各定点から4方向の撮影
植林地の概況を把握



各定点から4方向の撮影
植林地の概況を把握



苗木の生長を把握するため、樹高測定
1点目 約9.0cm



苗木の成長を生長するため、樹高測定
2点目 約9.0cm



苗木の生長を把握するため、樹高測定
3点目 約3.0cm



苗木の生長を把握するため、樹高測定
4点目 約4.0cm



苗木の生長を把握するため、樹高測定
5点目 約5.5cm



苗木の生長状況

6. 看板写真



セレンゲ県 植林地視察

2004 年春植林地







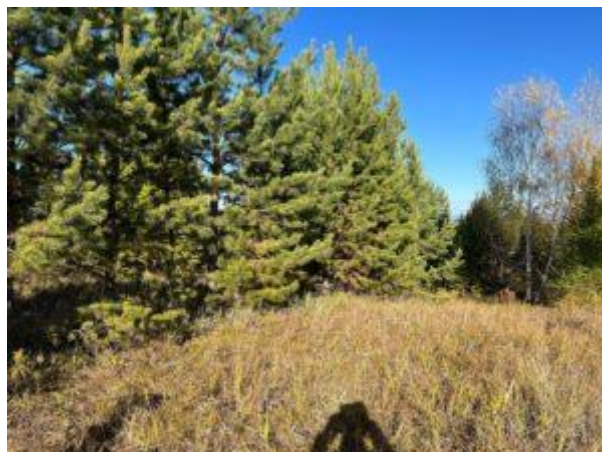


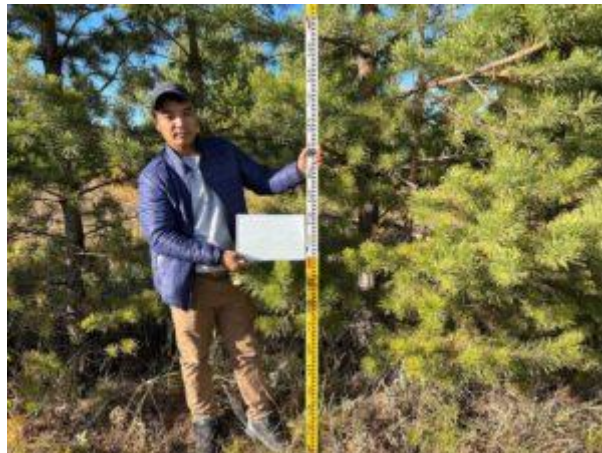




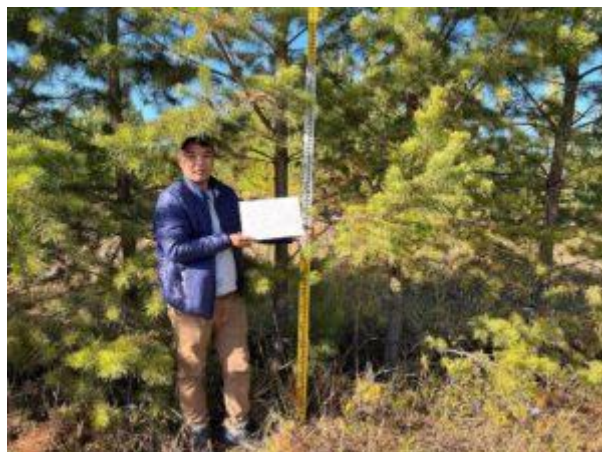
2007 年植林地

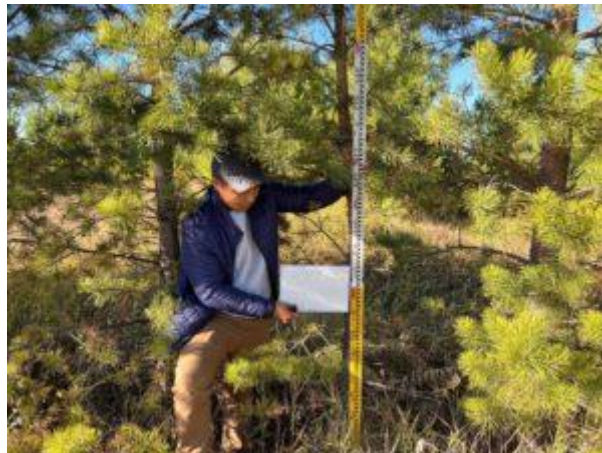












2012 年植林地



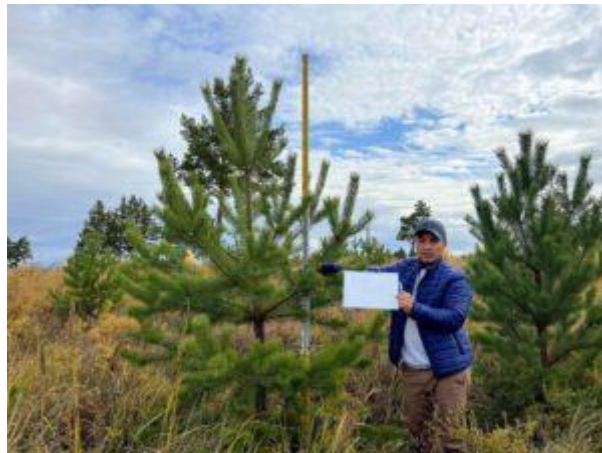






2014 年植林地



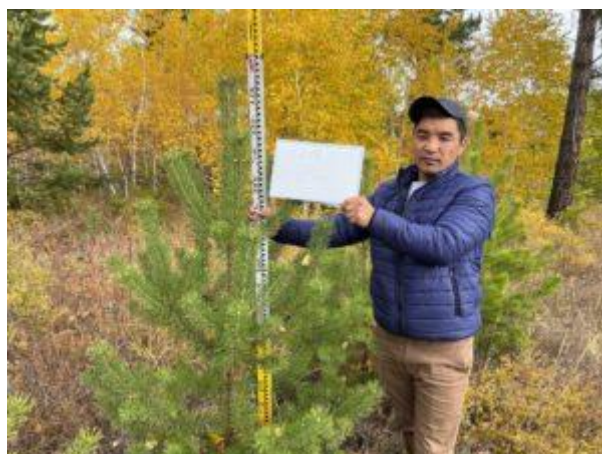
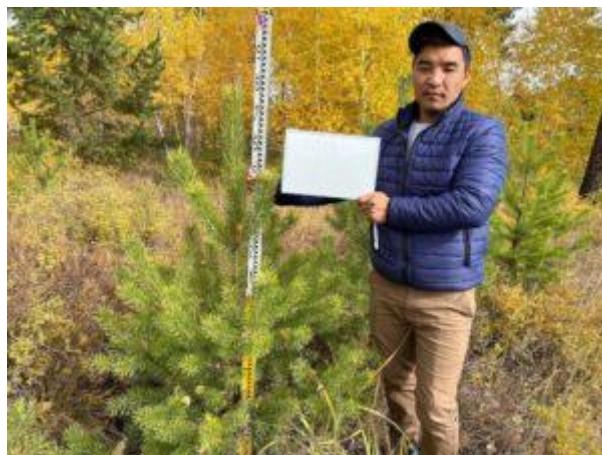






2016 年植林地

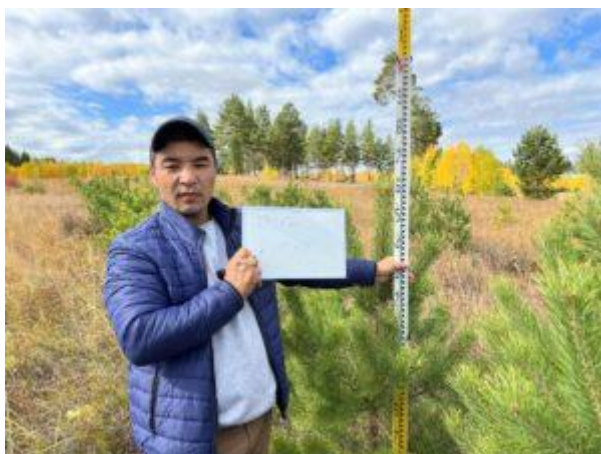


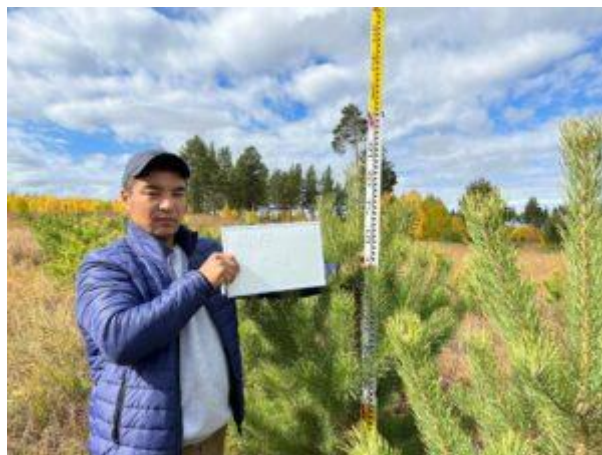


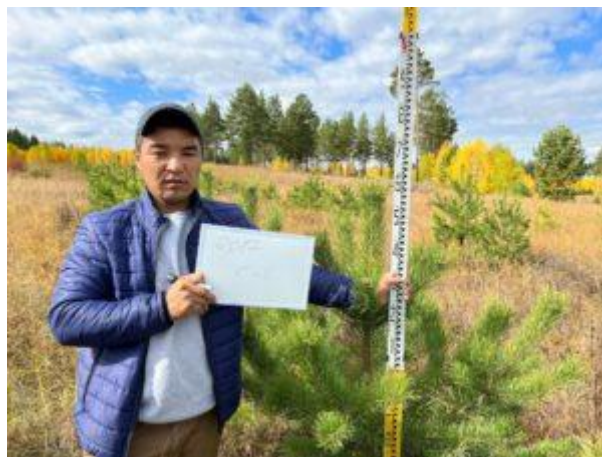




2017 年植林地

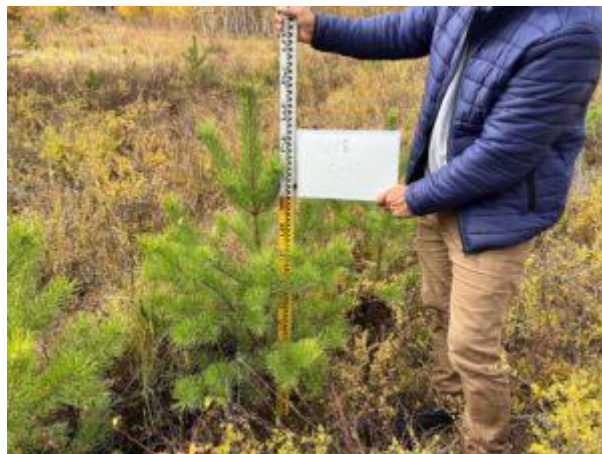


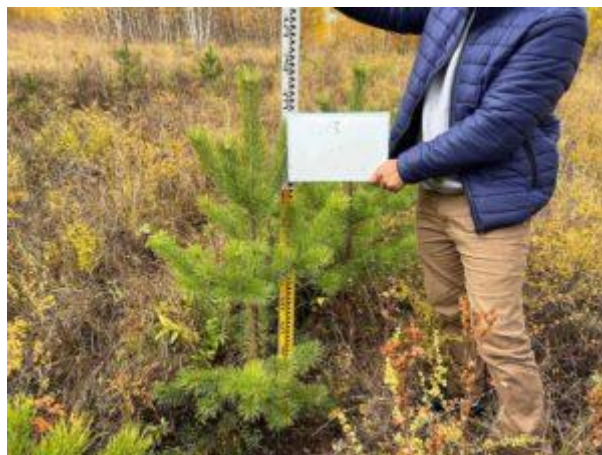
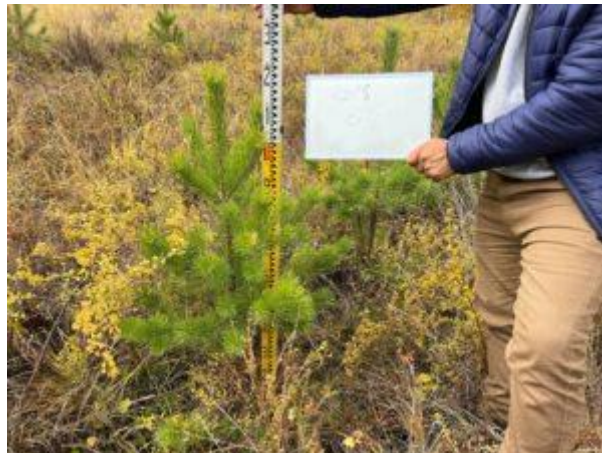


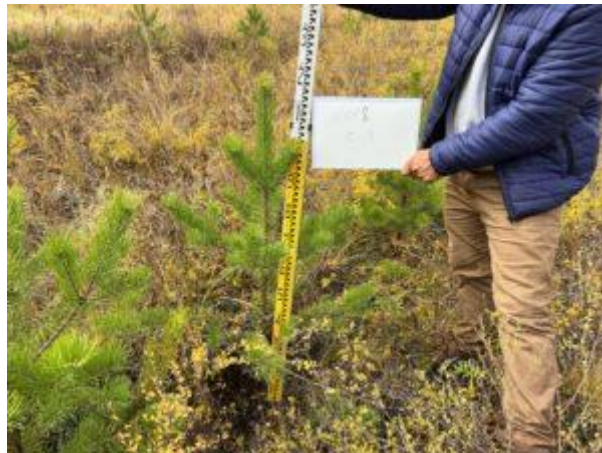


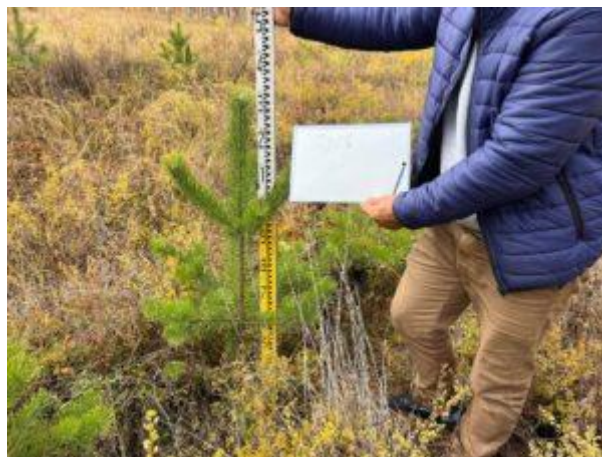


2018 年植林地









2019 年植林地





2020 年植林地

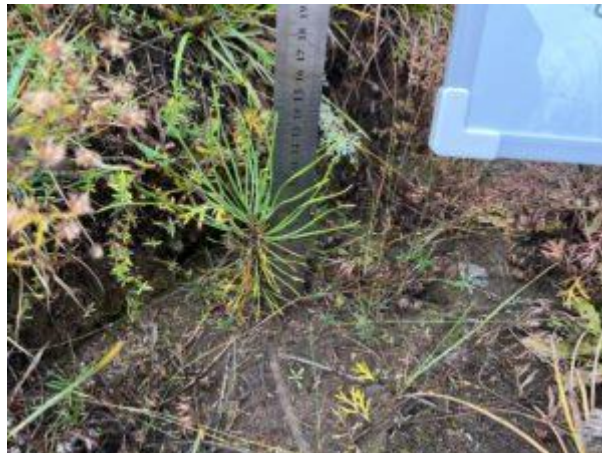




2021 年植林地











2022 年 GNC モンゴルエコツアー報告

＜ウランバートル市立 青少年育成特別教育センターにて文具の寄付＞

【日時】

2022 年 9 月 28 日 14 : 00～

【場所】

ウランバートル市立 青少年育成特別教育センター（1991 年設立）

【スタッフ】

D. バスカ（GNC Mongolia 事務局長 男性）

1）施設の状況

ウランバートル市内では、新型コロナウイルスの感染は収まりつつあり、日常が戻ってきた。街中ではほとんどの人がマスクをしていないが、コロナ感染予防は自己責任で、体力をつけたり免疫力を高めることが推奨されている。青少年育成特別教育センターでは免疫力の低い、低年齢の児童も多いため、感染予防のため手洗いうがいの徹底を行っている。生徒の皆さんは元気に、しっかりと勉強やスポーツ、家事などを頑張っている。

新しい校長の S. アマガラン先生が迎えてくれた。毎日市内でのランニングに励む、とても行動力のある、明るい先生だ。「このように毎年寄付を頂きありがとうございます。今後、日本の生徒さんと交流できる機会があればとても嬉しいです。」とのこと。

2）文具の受け渡し

ウランバートル市内で購入した文具は、ノート、筆記用具、色鉛筆、鉛筆削り、定規などで、新学期に必要な文具を中心に、様々なものを購入できた。

施設内で数名の生徒さんに会い、文具を直接渡すことができた。毎年、訪問を歓迎してくれ喜んでくれるのが嬉しい。きらきらとした表情が印象的だ。皆で大切に使い、勉強を頑張りますと言ってくれた。

「新型コロナウイルス感染症の拡大は収まりつつあるが、経済状況などは施設としても苦しいままで、今年もこうして文具の寄付を頂き、とても有難く、生徒の皆さんも喜んでいます。おかげ様で皆、元気に過ごしています。日本のティエラコムの皆さん、いつも寄付をありがとうございます。ティエラコムの皆さんのご健康とご多幸をお祈りいたします」とのお礼の言葉を頂いた。



ウランバートル市内で購入した文具



S.アマガラシ校長先生（右）と撮影



文具の受け渡し
たくさんの文具ありがとうございます！！

以上